

令和 6 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

小中一貫校 むくのき学園

大阪市立啓発小学校

大阪市立中島中学校

令和 7（2025）年 2 月

小中一貫校 むくのき学園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、平成26年度に大阪府で2番目の全市募集による施設一体型小中一貫校として開校した。開校前の啓発小学校と中島中学校は、長年にわたり、きびしい学力状況と困難な生活指導を課題として抱える学校であった。しかしながら、地域と連携し、丁寧できめ細かい対応を日々続けることで、状況の改善を図り、児童生徒の心の拠り所となる「温かな学校」を学校文化として育んできた。また、長年にわたり、多様な人権教育の取り組みを推進することで、高い人権意識と豊かな心の育成を図ってきた。

小中一貫校開校時は、大阪府教育振興基本計画に示されていた多岐にわたる教育改革施策を現場において研究・推進する「大阪府教育改革総合モデル校」の役割を期待される立場であった。その中で、小中学校の円滑な接続と、小中の教職員の協働、ICTを活用した教育活動、新しい英語教育、自校調理の中学校給食など新たな課題への対応に迫られた。それぞれ違う環境の中で過ごしてきた小中学校の教職員が、小中共通の組織目標のもと、主体的・能動的に協働する姿が現在では自然となり、組織的に取組を推進できるようになった。

小中学校の全国学力・学習状況調査、大阪府中学生チャレンジテスト等での学力到達度を示す数値は、着実に向上はつづけているものの、まだまだ課題も多い。また、全市募集を行うなかで、不登校など様々な課題を抱える生徒の7年生編入、支援が必要な児童生徒の増加に伴う支援体制の維持など、新たな課題も出てきている。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

○令和4年度～令和7年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年95%以上にする。【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】

○令和7年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を、小学校・中学校ともに95%以上にする。

【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】

○令和4年度～令和7年度の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童生徒数を毎年、前年度より減少させる。【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】

○令和4年度～令和7年度の校内調査において、不登校の児童（生徒）の割合を、毎年、前年度より減少させる。【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがありますか」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を令和3年度（小学校：80%、中学校：61.5%）より5%増加させる。【基本的な方向2：豊かな心の育成】

○令和7年度末の校内調査の「人それぞれのちがいや命を大切にすることを学習している」（小学校）、「学校では、命や人権の尊さについて考えることにつながる学習をおこなうことができる」（中学校）の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を、95%以上にする。【基本的な方向2：豊かな心の育成】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和 7 年度の小学校学力経年調査・中学生チャレンジテストにおける標準化得点・対府平均値を、同一母集団で比較し、いずれの学年も令和 3 年度の標準化得点より向上させる。（3 年：96.2、4 年：100.3、5 年：96.7、6 年：97.0、7 年：99.6、8 年：98.4、9 年：95.1）
【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和 7 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も、令和 3 年度（3 年：30.2%、4 年：21.1%、5 年：23.2%、6 年 20.5%）より 5 ポイント減少させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和 7 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も令和 3 年度（7 年：14.9%、8 年：26.5%、9 年：45.9%）より 5 ポイント減少させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和 7 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も令和 3 年度（3 年：32.1%、4 年：31.6%、5 年：10.7%、6 年：15.9%）より 5 ポイント増加させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和 7 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上、上回る生徒の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も令和 3 年度（7 年：14.9%、8 年 22.4%、9 年：24.3%）より 5 ポイント増加させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、令和 3 年度（3 年：66.6%、4 年：68.5%、5 年：62.5%、6 年：81.8%、中学校：83.2%）より 5 ポイント増加させる。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和 7 年度末の校内調査の「習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を 90%以上にする。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

○令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、小学校では特に課題である 50m 走と立ち幅とびの平均の記録を、令和 3 年度より向上させる。

（50m 走：男子 8.79 秒、女子 9.46 秒 立ち幅とび：男子 163.86cm、女子 150.21cm）

【基本的な方向 5：健やかな体の育成】

○中学校では、令和 7 年度の新体力テストにおける合計点数を令和 3 年度の男子平均（37.18 点）・女子平均（46.72 点）よりも、それぞれ 5 ポイント（5 点）向上させる。

【基本的な方向 5：健やかな体の育成】

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の小学校全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を10%以上にする。

令和7年度の中学校全国学力・学習状況調査の「1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を20%以上で維持する。

【基本的な方向6：教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

○令和7年度までに、ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業日においては1日以上設定する。

【基本的な方向7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

○令和7年度末の校内調査において、児童生徒1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和3年度（25冊/人）より3冊増加させる。

【基本的な方向8：生涯学習の支援】

○令和7年度末の保護者アンケートの「PTA活動や学校支援活動には、時間の都合がつけば、積極的に参加したいと思う」の項目について、令和3年度（小学校：45.8%、中学校：50%）より5ポイント増加させる。

【基本的な方向9：家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

(小学校)

- ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82%以上にする。

【基本的な方向 1：安全・安心な教育環境の実現】

- ・ 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。

【基本的な方向 2：豊かな心の育成】

(中学校)

- ・ 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 92%以上にする。

【基本的な方向 1：安全・安心な教育環境の実現】

- ・ 年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。

【基本的な方向 2：豊かな心の育成】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

(小学校)

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 28%以上にする。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 59%以上にする。

【基本的な方向 5：健やかな体の育成】

(中学校)

- ・ 年度末の学校診断アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を 40%以上にする。

【基本的な方向 4：誰一人取り残さない学力の向上】

- ・ 年度末の学校診断アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」を回答する生徒の割合を 63%以上にする。

【基本的な方向 5：健やかな体の育成】

【学びを支える教育環境の充実】

(小学校)

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕

【基本的な方向6：教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を87%以上にする。

【基本的な方向7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

(中学校)

- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕

【基本的な方向6：教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を82%以上にする。

【基本的な方向7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

【その他】

- 小中一貫教育の強みを最大限に生かす中で、ちがいを認め合い個性や能力を伸ばす教育の推進を図り、全市募集による入学希望者数を含め、新1年生の複数学級を維持する。

【基本的な方向9：家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度も、さまざまな人権教育に取り組み、高い人権意識をもつ豊かな心の涵養を図った。

【最重要目標1 安全安心な教育の推進】における学校の年度目標は、達成できたものの、できなかったものがあるが、年度目標の達成に向けた取組とその指標については、概ね達成できた。なかでも、遅刻率は増加したが、欠席の続く児童生徒の登校によるもので、不登校の改善に向けた取組の成果であると認識する。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】における学校の年度目標については、①～③の取組内容の指標は達成できているが、年度目標数値は達成できていない状況である。年度目標数値は、最も肯定的な回答とされており、①～③の取組内容の指標数値は、肯定的な回答としていることから、達成状況の評価が違っている。①～③の取組内容の指標数値の結果は、小学校では90%以上、中学校では80%以上となっていることから、肯定的な回答がほとんどであり、全体的な評価としては底上げとなっていると考える。しかしながら、児童生徒一人一人の学力向上につながっている現状ではないため、これまでの取組に加え、家庭学習や規則正しい生活の定着にも積極的に取り組んでいく必要がある。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】における学校の年度目標も概ね達成できている。教職員の心と体の負担軽減に取り組みながらも、全市共通目標の達成にむけて、引き続き取組を推進する。

(様式2)

小中一貫校むくのき学園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 (小学校) ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。【83.7%】 ・ 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。【82.8%】 (中学校) ・ 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を92%以上にする。【79.8%】 ・ 年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。【96.2%】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】 なかまについて考える取組を企画し、他の人の立場に立ち物事を考えることのできる集団を育成する。また、職員アンケートなどを通して、児童生徒との関わりのなかで有用であると感じられる取組の情報共有を図る。	A
指標 学校診断アンケートの「人を傷つけるような言葉や行動を許さない学年になっていると思う。(小学校)」の項目において、肯定的回答の割合を75%以上にする。 「学校は、いじめや暴力行為を許さない安心できる場所になっている。(中学校)」の項目において、肯定的回答の割合を85%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】 自律的な生活習慣や規範意識を育成し、集団生活を通じて社会連帯の基礎を養う。特に、むくのき学園の決まりを年度当初に確認し、教室掲示など、児童会・生徒会を中心に決まりの徹底を図る。	A
指標 むくのき学園のきまりをもとに指導のあり方を共有しながら、さまざまな場面での児童生徒の規範意識を高め、「むくのき学園の決まりを守っている。(小中学校)」の項目において、肯定的回答の割合を小学校95%、中学校85%以上にする。	

<p>取組内容③【基本的な方向２：豊かな心の育成】</p> <p>小中一貫校として９年間を見通した系統的な人権教育を推進し、豊かな人権感覚を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>人権教育推進にかかわる年間方針、人権教育確認事項をもとに、学校生活全般において人権を意識した教育を行い、人権課題に関わる取組を年間計画にそって各学年で取り組む。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向２：豊かな心の育成】</p> <p>一人一人に役割を与えて活躍の場をつくり、達成感・充実感を味わうことで、自己有用感・自尊感情を育む。また、職員アンケートなどを通して、児童生徒との関わりの中かで有用であると感じられる取組の情報共有を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校診断アンケートの「自分にはよいところがある。」の項目において、肯定的回答の割合を小学校 88% 中学校 82% 以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向１：安全安心な教育環境の実現】</p> <p>児童生徒がものを大切に扱うことができるように、清掃用具の管理や取り扱いについて共通認識を図る取組をおこなう。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学校診断アンケートの「責任をもって係や当番活動をしたり、みんなと協力して清掃活動に取り組んだりしている（小学校）」、「学校のものを大切に扱い、自分の役割に責任を持ち、みんなと協力をして清掃活動に取り組んでいる（中学校）」という項目について肯定的な回答の割合を 90% 以上にする。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容①】１・２学期ともに「grow up むくのき」を実施した。児童生徒がそれぞれの学級目標に向かって主体的に行動したり、自己や他者とのちがいについて考えたりする機会となった。２学期には、「きまりについて考える」を実施し、児童生徒が主体となって話し合う機会があった。規範意識が高まっている発言も多く見られ、学校をどうすれば良くなっていくのかと考えられるようになってきている。</p> <p>学校診断アンケートの「人を傷つけるような言葉や行動を許さない学年になっていると思う。（小学校）」「学校は、いじめや暴力行為を許さない安心できる場所になっている。（中学校）」の項目では、肯定的回答の割合が（小学校）78.8%、（中学校）82.4%となり、小学校は目標を達成したが、中学校は目標を達成できなかったものの、平均して高数値を維持することができた。</p>	

【取組内容②】2学期の「grow up むくのき」では、「きまりについて考える」を実施し、児童生徒が主体的となって現在の校則について自分の意見を発言することができた。その中でも、「現在の校則をきちんと守るべき」といった意見もあり、規範意識が高まってきた。

学校診断アンケートの「むくのき学園の決まりを守っている。」の項目では、肯定的回答の割合が（小学校）89.7%、（中学校）94.1%となり、小学校は目標を達成できなかったが、中学校は目標を達成でき、平均値として高数値をいじることができた。

【取組内容③】人権課題に関わる取組を年間計画に基づいて各学年、小学校も中学校も概ね計画的に進めることができた。また、今年度も文化祭は、小中連携を行い滞りなく人権教育を軸とした取組を経て舞台発表につなげることができた。そして、東淀川支援学校と居住地校交流やUD学習の取組を通して地域間交流も実施することができた。

【取組内容④】小学校では委員会活動、中学校では各種委員会、係活動などで、一人一人に役割を与えて活躍の場をつくることができた。学校診断アンケートの「自分にはよいところがある。」の項目において、肯定的回答の割合が（小学校）84.8%、（中学校）78.4%と、小中学校ともに目標を達成することができなかったが、委員会活動や行事での係活動等、学校のために主体的に取り組む姿が見られた。また、職員アンケートを共有することにより、児童生徒との関わりのなかで有用であると感じられる取組の情報共有を積極的に行うことができた。

【取組内容⑤】学校診断アンケートで「責任をもって係や当番活動をしたり、みんなと協力して清掃活動に取り組んだりしている（小学校）」「学校のものを大切に扱い、自分の役割に責任を持ち、みんなと協力をして清掃活動に取り組んでいる（中学校）」という項目についての肯定的回答率が90.8%（小91.5%、中90.2%）であり、年度目標の肯定的な回答の割合90%以上を達成した。また、清掃用具の扱いや清掃の仕方について動画を作成したり、清掃状況チェックを実施した。

次年度への改善点

【取組内容①】grow up むくのきの取組について、より集団意識を高めていけるような内容に設定する。

【取組内容②】協力してもらえる家庭は増えてきた。「むくのきのきまり」の内容も発信していき、協力してもらえる家庭を増やしていきたい。

【取組内容③】学校生活において人を傷つける言葉や行動があることから、小中ともに人権感覚を豊かにする実践の充実を図りたい。

【取組内容④】学校診断アンケートでは、肯定的な意見が小中ともに目標を達成できなかったが、来年度も学校生活や行事等を通して自尊感情が高められるように指導していきたい。

【取組内容⑤】清掃用具の扱いや清掃の仕方について啓発した結果、用具を正しく使い、清掃をしている姿が多くみられるようになった。また清掃チェックを行うことで、清掃活動への意欲向上につながった。しかし清掃活動に対して真剣に取り組む姿が見られるようにはなってきたものの、継続して取り組んでいる児童生徒は少ないように感じる。今後、清掃活動の啓発や清掃チェックなどを定期的に行い、真剣に清掃に取り組む姿勢を継続する。

小中一貫校むくのき学園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 (小学校) ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を28%以上にする。【27.0%】 ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を59%以上にする。【63.8%】 (中学校) ・年度末の学校診断アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を40%以上にする。【32.7%】 ・年度末の学校診断アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」を回答する生徒の割合を63%以上にする。【57.7%】	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向4: 誰一人取り残さない学力の増加】 児童生徒一人一人が個々の目標に主体的に取り組む環境を作る。	A
指標 算数・数学科プリント・デジタルドリルに取り組む。 年間目標 小学校(低学年) …80回、(中学年) …80回、(高学年) …80回 中学校…100回	
取組内容②【基本的な方向4: 誰一人取り残さない学力の増加】 授業における能動的な活動の充実を図り、児童生徒が発達段階に応じた形で、グループディスカッション・ディベート・グループワーク等、協働して課題の発見・解決ができる場を設定するなど、主体的・協働的に学習に取り組めるようにする。	A
指標 学校診断アンケートにおいて、「自分の考えをペアやグループ活動で説明したり話し合ったりしている(小学校)」、「授業では自分の考えを発表する機会がよく与えられている(中学校)」、「授業では、生徒の間に話し合う活動をよく行っている(中学校)」の項目において、肯定的な回答を80%以上にする。	

<p>取組内容③【基本的な方向 5：健やかな体の育成】</p> <p>(小学校)児童が意欲的に運動に取り組めるよう、運動する機会を増やす。</p> <p>(中学校)基本的な生活習慣を定着させる取組を行い、健やかな体の育成を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>(小学校)学校診断アンケートにおいて「クラブ活動や体育の授業、休み時間など運動することは楽しい」の肯定的回答率を 90%以上にできるよう運動への意欲を高める取組を実施する。</p> <p>(中学校)学校診断アンケートにおいて「朝食を毎日食べている」の肯定的回答率を80%以上にできるよう、基本的な生活習慣の確立をめざした取組を実施する。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容①】すべての学年で計算プリント・デジタルドリルの目標枚数・回数を達成することができた。</p> <p>【取組内容②】すべての学年において、授業でグループワークやグループディスカッションを取り入れることができている。また、学校診断アンケートにおいて、「自分の考えをペアやグループ活動で説明したり話し合ったりしている（小学校）」、「授業では自分の考えを発表する機会がよく与えられている（中学校）」の項目において、肯定的な回答がそれぞれ 90.1%、82.4%という結果となり、「授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っている（中学校）」の項目においては 86.3%という結果となり、目標を達成できた。</p> <p>【取組内容③】(小学校)学校診断アンケートにおいて「クラブ活動や体育の授業、休み時間など、運動することは楽しい」の肯定的回答率は 93.4%で目標を上回った。耐寒かけ足を各学年で引き続き取り組むことにより、体力の向上につなげることができた。また、運動委員会を中心に、運動する機会を増やすための計画を立て、取組を実施した。</p> <p>(中学校)学校診断アンケートにおいて「朝食を毎日食べている」の肯定的回答は 84.2%で目標を上回った。保健だよりや掲示物等を活用し、保健委員会を中心に朝食をはじめとして生活リズムを整えることの大切さについて伝えていくことができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>【取組内容①】全学年、目標回数に到達できた。今年度は、tomolinks を使用したデジタルドリルを取り入れたが、本校の実態に合っていない問題もあったため、使用が難しかった。来年度また使用できるかは分からないが、学力向上につながる内容を実施していく。</p> <p>【取組内容②】小・中ともにどの項目においても、昨年度より肯定的な回答を得ることができた。来年度も、グループワークやグループディスカッションを通して、より協働して課題の発見・解決が出来る取組を実施していく。</p> <p>【取組内容③】(小学校)運動委員会において、みんなが体を動かして楽しめる内容を実施していく。(中学校)昨年度より 5%アップし目標は達成したが、まだ朝食を食べている割合が低い。朝食を食べる割合を増やすために原因を追究し、正しい生活習慣を身につけること、朝食を食べることの大切さを、委員会活動や掲示物・保健だより等を活用し伝えていく。</p>	

(様式2)

小中一貫校むくのき学園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。【39.0%】 〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を87%以上にする。【93.3%】 <p>(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。【55.3%】 〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を82%以上にする。【88.9%】 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向6：教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>ICT 機器の利活用推進の為、教職員、児童、生徒が負担なく使用できるように環境を整備する。</p> <hr/> <p>「学習者用端末活用率表」における、児童生徒の学習者用端末（クロームブック）の月別活用率を小中ともに75%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向8：生涯学習の支援】</p> <p>学校図書館や学級文庫に児童生徒の興味のある書籍を充実させ、児童生徒に読書習慣を身につけさせる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館支援員と協力して、月に1度程度、児童生徒の学年に応じた推薦図書を紹介する。 学校図書館、巡回図書、学級文庫等を活用して、小学校では読書の時間を週1回、中学生では朝読書の時間を週3回程度設け、読書する習慣を身につけさせる。 中学校の学校診断アンケートの「ふだんから読書をしている」36.4%、「教室や図書室の本をよく利用している」22.1%の項目について（数字は令和5年度の肯定的回答率）それぞれ2ポイント増加させる。 	A

取組内容③【基本的な方向 7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 各月の行事予定に「ゆとりの日」を毎週木曜日に記載し、職員朝礼においてもアナウンスし、定時退勤を促進する。	B
指標 月 80 時間以上の時間外超過勤務について、学校全体で月平均 1 名以下にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容①】 月別活用率の平均は小学校 76.1%、中学校は 75.7%で目標を達成した。 【取組内容②】 中学校の学校診断アンケートの「ふだんから読書をしている」、「教室や図書室の本をよく利用している」の項目の肯定的回答について、前者は 40.6%、後者は 31.4%との結果となり、それぞれ 4.2%、9.3%の増加があった。今年度は図書室を利用しやすいように本棚の配置換えを行ったことが来室を促すきっかけとなったと分析している。 【取組内容③】 4 月～2 月の長時間勤務 80 時間超えの教職員は小中あわせて 6 名で、月平均 0.5 名である。また、本校の平均時間外勤務時間は、小学校は毎月、昨年度の同年同月より平均約 3 時間増加しており、校種別の平均時間についても、上回っている。中学校については、昨年度の同年同月、校種別の平均時間ともに昨年度より平均約 2 時間減少している。	
次年度への改善点	
【取組内容①】 小学校においては、年間を通して「心の天気」や「navima」などの学習コンテンツを児童が日常的に使用することができた。一方で、児童の 80%以上 が学習者用端末を活用した日数は 33%程度に留まった。環境整備をさらにすすめ、50% 越えをめざしていく。 中学校においては、9 月末時点ではわずかに 75%に達していなかったが、10 月初旬より研究部と連携し、「tomoLinks」のドリルを終学活前の学習に取り入れ始めたことで使用率が上がり、目標を達成することができた。生徒の 80%以上が学習者用端末を活用した日数も 54.5%となり、順調といえる。今後も継続して環境整備を行っていく。 【取組内容②】 上記のポイントは増加したものの、中学生においては実質昼休みの時間等を確保できず図書館利用は難しい状態である。しかしながら、図書館利用率を上げるために、生徒たちがより興味関心をもつような図書を充実させるとともに、学校図書館、巡回図書、学級文庫等を有効に活用し、普段から読書をする習慣をつけさせるよう、呼びかけを行う。 【取組内容③】 今後もさらに時間外勤務時間の短縮にむけて取り組む。毎週木曜日のゆとりの日、もしくは木曜日以外でも、週に 1 日は定時退勤ができるよう、引き続き職員室内での掲示や退勤を促す声かけ等で意識づける。また、18 時以降は、基本的に職員室でのみの執務とし（中学校部活動は除く）、全教職員の残業内容について集中管理を行う。	

(様式2)

小中一貫校むくのき学園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【その他】 ○小中一貫教育の強みを最大限に生かす中で、ちがいを認め合い個性や能力を伸ばす教育の推進を図り、全市募集による入学希望者数を含め、新1年生の複数学級を維持する。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		達成状況
<div>取組内容①【基本的な方向4：誰一人取り残さない学力の向上】 【基本的な方向7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 小学校からの一貫性を生かした学びに連続性をもたせ、効果的な小中協働授業を行う。</div> <div>指標 ・入り込みなどを通して小学校教員と中学校教員で小中協働授業をおこない、学校診断アンケートの小中一貫した教育に関する質問での肯定的回答率を80%以上にする。 ・1年に1回程度、小中同じ教科・領域の教員で情報交換・情報共有を行う。 ・相互授業参観を設定し、小中の教員がそれぞれ1回以上参観する。</div>		A
<div>取組内容②【基本的な方向9：家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 区役所・地域・各支援機関との連携や、スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーとの連携を円滑に行うことで、各家庭と信頼関係を構築する。ミマモルメを効率的に利用し、情報発信・情報提供を行う。</div> <div>指標 保護者による学校診断アンケートにおいて、小中ともに「先生たちは子どもや保護者が困ったときに相談にのり、対応している」「子どもたちの健全な育成には、学校・保護者・地域の連携がとても大切である」のそれぞれの項目において、全体で92%以上にする。</div>		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【取組内容①】小・中学校への入り込み授業が順調に行われた。また、相互授業参観週間が11月に2週間実施され、教職員間での事後アンケートでも実施に関して肯定的な意見が多かった。また、「小中一貫校で小学校5・6年生が中学校の先生の専門的な知識を生かした授業を受けられるのは良いことだ」、「小中一貫校で異学年交流を行うことは良いことである」という項目の肯定的回答は、それぞれ87.3%、91.1%という結果となった。		

【取組内容②】欠席連絡等アプリ「ミマモルメ」とホームページを利用して、多角的でタイムリーな情報発信を行い、アンケート集約機能も利用した。ホームページにおいては、運動会や文化祭、修学旅行等の宿泊行事をはじめ、日々の学校の様子を先生方の協力も得ながら、ほぼ毎日掲載することができた。また、ソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと、児童生徒や保護者の生活環境や心理的安全性について、細やかなケアができるよう頻繁に情報交換、情報共有を行うことの重要性が教職員の意識に浸透し、その環境が整った。

保護者による学校診断アンケートにおいて、小学校は「先生たちは子どもや保護者が困ったときに相談にのり、対応している」93.7%、「子どもたちの健全な育成には、学校・保護者・地域の連携がとても大切である」97.3%で、目標を上回った。中学校は、「先生たちは子どもや保護者が困ったときに相談にのり、対応している」79.6%と目標を下回ったが、「子どもたちの健全な育成には、学校・保護者・地域の連携がとても大切である」は94.2%と目標を上回った。

次年度への改善点

【取組内容①】中学校の各教科の研究討議に小学校の教員が参加することで、小中同じ教科・領域の情報交換・情報共有を行っていくことを期待したが、今年度は小学校教員の参加が実現出来なかったため、来年度への課題となった。また、「相互授業参観週間をもう少し延長してほしい」との意見があったため、来年度は延長を検討し、授業参観へのさらなる積極的な参加を促していく。

【取組内容②】配付文書等が子どもたちを介さず直接保護者へ届くよう、保護者のミマモルメへの100%登録を達成する方法を模索する。スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、各関係機関等との連携を円滑に行い、PTAや地域とも協力し、各家庭との信頼関係を構築し、子どもたちのために、学校内外の行事も進めていく。